



KITAMURA SITE

北村遺跡

八ヶ岳南麓の方形周溝墓

1996

山梨県長坂町教育委員会

峡北土地改良事務所

山梨県長坂町

北村遺跡

県営広域営農団地農道整備事業にともなう発掘調査報告書

1996. 3

長坂町教育委員会
峡北土地改良事務所

序

八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置する長坂町には、これまでに古くは縄文時代草創期からの遺跡が存在し、その数は200ヶ所近くにのぼり、北巨摩郡下では最も遺跡の数が多い自治体となっております。

この長坂町を縦横に貫くように計画された八ヶ岳地区広域農道には、数ヶ所の遺跡が確認されたため、町教育委員会では埋蔵文化財保護行政に対応してまいりました。本書はこれらのうち下条地内の北村遺跡の発掘調査について報告したものです。

本遺跡からは、八ヶ岳南麓で初見となる方形周溝墓群がほぼ完全な形で確認され多数の土器も出土し、この地の国家形成期を探る上で欠かすことのできない貴重な考古資料となりました。本書がひろく研究や教育の場に活用されることを望みます。

発掘調査をささえて下さった地域住民の皆様と、調査へのご指導、ご協力をいただいた関係機関に深く感謝申し上げます。

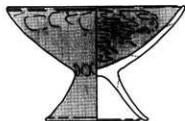
平成8年3月

長坂町教育委員会

教育長 小松 清寿

例 言

- 1 本書は山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条字北村に所在する北村遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は山梨県宮広域宮農団地農道整備事業にともない、山梨県峡北土地改良事務所からの委託を受け長坂町教育委員会が実施した。
- 3 本書の編集は小宮山隆（町教育委員会埋蔵文化財担当）が行なった。
- 4 本書作成に関わる業務は小宮山と吉田光雄（同遺跡調査補助員）の総括のもと、石川昭江、井出仁美、長田加代子、小林貴子、清水純代、橋本はるみ、日向登茂子、深沢恵子（同遺跡整理作業員）が行なった。
- 5 発掘調査、遺物等の整理及び報告書の作成にあたり以下の方々の御指導をいただいた。心より謝意を表します（順不同・敬称略）。
立花 実、田尾誠敏、山岸良二、中山誠二、小林健二、小野正文、保坂康夫、出月洋文、田代孝、前田 潮、田中 裕、日高 慎、北巨摩市町村文化財担当者各位
- 6 出土品及び図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。
- 7 遺物図版トーン部分は赤色塗彩を示す。



北村遺跡

Contents

もくじ

本文

序	3
例言	5
第1章 調査の経過と概要	9
1 調査の経過	9
2 遺跡の概要	9
3 基本層序	10
第2章 遺跡をとりまく環境	11
1 遺跡の位置	11
2 遺跡周辺の歴史的環境	11
第3章 発見された遺構と遺物	14
1 1号方形周溝墓	14
2 2号方形周溝墓	14
3 3号方形周溝墓	14
4 4～6号方形周溝墓	19
5 出土遺物の検討	19
第4章 調査のまとめ	49
北村遺跡土器変遷	50

挿図・表

図1 基本層序	10	セクションポイント配置図	32
図2 長坂町の遺跡分布 (縄文時代～古墳時代)	12	図26 セクション (A-A')	33
図3 北村遺跡位置図	15	図27 セクション (B-B')	33
図4 北村遺跡周辺地形図	16	図28 セクション (C-C')	33
図5 北村遺跡全体測量図	17	図29 セクション (D-D')	34
図6 1号方形周溝墓 セクションポイント配置図	20	図30 セクション (E-E')	34
図7 セクション (O-A-A')	21	図31 セクション (F-F')	34
図8 セクション (B-B')	21	図32 セクション (G-G')	35
図9 セクション (O-C-C')	21	図33 セクション (H-H')	35
図10 セクション (D-D')	23	図34 セクション (I'-I)	35
図11 セクション (O-E-E')	23	図35 3号方形周溝墓 墳頂部周辺土器出土状況	36
図12 セクション (F-F')	23	図36 3号方形周溝墓	37
図13 セクション (O-G-G')	25	図37 4号方形周溝墓	39
図14 セクション (H-H')	25	図38 5号方形周溝墓	39
図15 1号方形周溝墓墳頂部層序	25	図39 6号方形周溝墓	40
図16 1号方形周溝墓遺物出土状況	27	図40 6号方形周溝墓周溝内土器出土状況	40
図17 1号方形周溝墓 墳頂部土器出土状況	28	図41 出土土器 (1)	41
図18 2号方形周溝墓セクションポイント配 置図	28	図42 出土土器 (2)	42
図19 セクション (A-A')	29	図43 出土土器 (3)	43
図20 セクション (B-B')	29	図44 出土土器 (4)	44
図21 セクション (C-C')	29	図45 出土土器 (5)	45
図22 2号方形周溝墓遺物出土状況	30	図46 土器№12の出土場所および接合状況	45
図23 2号方形周溝墓 墳頂部層序・土器出土状況	31	図47 出土土器	46
図24 2号方形周溝墓周溝内土器出土状況	31	表1 長坂町の縄文から古墳時代にかけての 遺跡一覧	13
図25 3号方形周溝墓		表2 北村遺跡出土土器一覧	47
		表3 北村遺跡 石器計測表	48

写真図版

図版1	北村遺跡方形周溝墓積層模型……………52	填頂部周辺遺物出土状況②……………58	
図版2	1号方形周溝墓全景……………53	図版15	3号方形周溝墓北側周溝……………58
図版3	1号方形周溝墓墳頂部周辺……………53	図版16	3号方形周溝墓日一日'土層……………59
図版4	1号方形周溝墓 墳頂部遺物出土状況……………54	図版17	3号方形周溝墓A—A'土層……………59
図版5	1号方形周溝墓北側周溝……………54	図版18	1号方形周溝墓墳頂部出土土器……………59
図版6	1号方形周溝墓土層A—A'……………55	図版19	1号方形周溝墓出土土器……………60
図版7	1号方形周溝墓土層F—F'……………55	図版20	2号方形周溝墓出土土器……………61
図版8	1号方形周溝墓土層G—G'……………55	図版21	2号方形周溝墓出土土器……………62
図版9	2号方形周溝墓全景……………56	図版22	3号方形周溝墓出土土器……………62
図版10	2号方形周溝墓西側周溝……………56	図版23	3号方形周溝墓出土土器……………63
図版11	2号方形周溝墓遺物出土状況……………56	図版24	3号方形周溝墓出土土器……………64
図版12	3号方形周溝墓全景……………57	図版25	3号方形周溝墓出土土器……………65
図版13	3号方形周溝墓 墳頂部周辺遺物出土状況①……………57	図版26	3号方形周溝墓出土土器……………66
図版14	3号方形周溝墓	図版27	6号方形周溝墓……………66
		図版28	出土土器……………67

第1章 調査の経過と概要

1 調査の経過

1993（平成5）年、山梨県峡北土地改良事務所は長坂町に対して八ヶ岳南麓を縦横断する広域農道整備事業を提示した。計画路線には数ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が予想され、同年度に長坂町教育委員会は確認調査を実施した。同町の下条字北村地内においては、周知の埋蔵文化財包蔵地として北村遺跡、および三井氏館跡の二遺跡が隣接しており（図3）、確認調査の結果、両遺跡内とその周囲の計画路線上で土器片などが出土した。町教育委員会は山梨県教育庁学術文化課および同峡北土地改良事務所と協議を行ない、1994年10月から発掘調査を開始し、終了したのは1995年12月である。

なお当初、遺跡内容の主体は「三井氏館」本体北側の館に関連するものであろうと予測していたことなどから、調査事業で用いた遺跡名称は「三井氏館跡」であった。しかし、1994（平成6）年度の発掘調査で、出土遺構・遺物のほぼ全てが古墳時代初頭期に属するものと判明し、混乱を避ける意味から急速その名称を「北村遺跡」に変更している。

2 遺跡の概要

発掘調査の結果、6基の方形周溝墓が確認された。方形周溝墓の確認は北巨摩郡下で韭崎市の坂井南遺跡¹⁾に次いで二例目、八ヶ岳南麓では初見例である。1994年度は調査区北東側で確認された2基（1号・2号方形周溝墓）を調査し既に概要を報告している²⁾。翌1995年度は調査区南西側の4基（3号・4号・5号・6号方形周溝墓）を調査した。これらの周溝墓は出土遺物から4世紀前半に築造されたものと推測される。1号と3号の周溝墓には方台部に墳丘状の盛り土遺構が認められた。盛り上りは1～3mの高さがあり、方形周溝墓の全体構造を探る上で参考になる。また1号・2号・3号の周溝墓は方台部において長方形の竪穴遺構それぞれ有し、埋葬主体部と推察される。

1)長坂町教育委員会1995「三井氏館跡（北村遺跡）概報」

2)山下孝司氏（韭崎市教育委員会）のご教示による。

3)註1)に同じ

3 基本層序 (図1)

層序は大まかに表土層および方形周溝墓方台部填丘構成層をI層、方形周溝墓築造時旧地面および方形周溝墓周溝内覆土である黒色土層をII層、周溝への崩落土をIII層、周溝壁部崩落土をIV層、周溝底部のブロック状の黄褐色ローム土層をV層、地山となる黄褐色ローム土層をVI層とした。V層は周溝の壁および底部の調整に用いられた可能性がある。周溝内の土器類出土層位はII～III層に限られる。

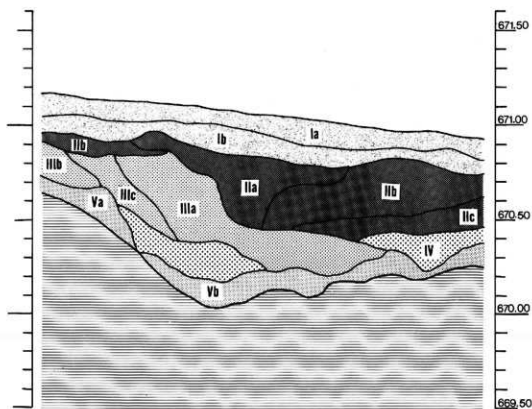


図1 基本層序

- I a 暗褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I b I aよりやや明るい褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I c 黄褐色土、黄褐色土(ローム)粒子を多量に含む、粒子不均密、しまりなし
- II a 黒色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりなし
- II b II aよりやや明るい暗褐色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりなし
- II c 褐色土、わずかに炭化物を含む、粒子不均密、ややしまりあり
- III a 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- III b III aより明るい褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- III c III aより暗い褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- IV 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- V a 黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
- V b 黄褐色土、径3～8cmの黄褐色土ブロックを多量に含む、しまりなし
- VI 黄褐色土、粒子均密、しまりあり

第2章 遺跡をとりまく環境

1 遺跡の位置

北村遺跡は北緯35度48分28秒、東経138度22分30秒に位置する。その地形は南ハヶ岳爆発破壊によるハヶ岳火砕流によって形成された、湧水に乏しく高燥な通称長坂台地の上である。遺跡周辺は北西から南東にのびる瘦せた舌状台地の両側に浅谷が比高およそ5mで追っている。標高はおよそ671mであり、落陽広葉樹林を切り開いた田畑や、植林による赤松の森のひろがる純農村的景観を呈している。本遺跡の南約100mには、第4紀氷期の生き残りである樹高42mのヒメバラモミ（通称「日野のヒメバラモミ」山梨県指定文化財）が立っており、現存するなかでは最低標高に生息するといわれている。

2 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡の立地する台地上やその斜面には縄文時代から中世に至るまでの数多くの遺跡が存在する（図2、図3）。1940年、史前学会の大山柏らによって山梨県下で最初の学術発掘とされ、縄文時代後晩期の配石墓群や多量の石鏃や耳飾が出土した長坂上条遺跡¹⁾は本遺跡の北約1kmにある。また1995～96年の発掘調査により縄文時代前～中期の住居跡が100軒以上発見された酒呑場遺跡²⁾は同じく北へ約1.5kmほどの距離である。また東へ0.7kmには古墳時代中期から平安時代の集落跡が町教育委員会により調査された龍角遺跡がある。さらに北東0.8kmには戦国期武田氏の重臣長坂氏の居館跡といわれる通称「長閑山」が立地している。ハヶ岳南麓の遺跡は縄文時代中期と平安時代のものが圧倒的に多いとされるなかで、本遺跡周辺のものとは比較的その属する時代が多様性に富んでいる。

しかし、これまで開発の及んでいない広大な森林部分では遺跡の有無すら確認することが困難であり、未確認の遺跡も多数存在することは明らかである。

1) 大山柏・竹下次作・井出佐重1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-31-29頁 史前学会

2) 山梨県埋蔵文化財センター1995・1996「年報」11・12

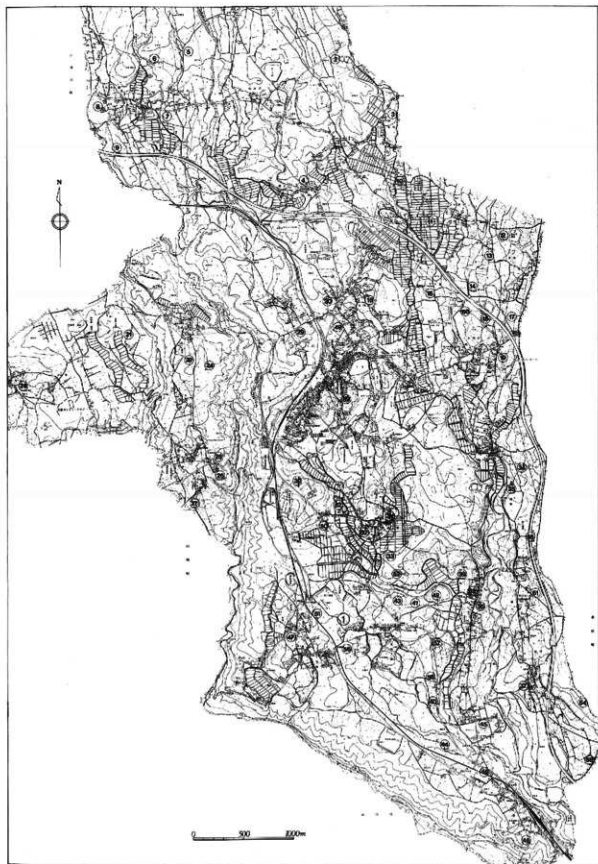


図2 長坂町の遺跡分布（縄文時代～古墳時代）

表1 長坂町の縄文から古墳時代にかけての遺跡一覧

1 北村遺跡 (三井氏館跡)	45 農業高校前遺跡 (縄文時代中期)
2 椋原敷遺跡 (縄文時代中期、弥生時代)	46 三ツ塚古墳 (古墳)
3 神之原遺跡 (縄文時代中期)	47 池平遺跡 (縄文時代中期)
4 十郎林遺跡 (縄文時代中期)	48 上口野原遺跡 (縄文時代中期)
5 夫婦岩遺跡 (縄文時代後期/晩期)	49 大林遺跡 (縄文時代中期)
6 横山遺跡 (縄文時代中期/後期)	50 長坂上木遺跡 (縄文時代中期/後期/晩期)
7 横山平遺跡 (縄文時代中期/後期)	51 北村北遺跡 (縄文時代中期)
8 上フノリ平北遺跡 (縄文時代中期)	52 和田遺跡 (古墳時代)
9 上フノリ平南遺跡 (縄文時代中期)	53 洗沢上町遺跡 (縄文時代中期)
10 別当西遺跡 (縄文時代後期)	54 泥里遺跡 (縄文時代中期/後期)
11 小和田遺跡 (縄文時代中期)	55 頭無遺跡 (縄文時代中期)
12 塚田遺跡 (古墳時代)	56 新居遺跡 (縄文時代中期)
13 深田遺跡 (縄文時代中期、古墳時代)	57 山木遺跡 (縄文時代中期)
14 柳新居遺跡 (縄文時代中期、古墳時代)	58 下塚敷北遺跡 (縄文時代中期)
15 小屋敷遺跡 (縄文時代早期/中期/後期)	59 上町南遺跡 (縄文時代中期)
16 柳坪遺跡 (縄文時代中期、弥生時代、古墳時代)	60 柳坪北遺跡 (縄文時代早期/前期/中期、 弥生時代)
17 境原遺跡 (弥生時代)	61 新田遺跡 (縄文時代中期)
18 成岡遺跡 (縄文時代中期、弥生時代)	62 酒呑場東遺跡 (縄文時代中期、弥生時代)
19 石原田北遺跡 (縄文時代後期)	
20 房尾敷遺跡 (縄文時代前期/中期)	
21 東薔遺跡 (縄文時代前期/中期)	
22 問の原遺跡 (縄文時代前期/中期)	
23 西薔南遺跡 (縄文時代中期)	
24 健康村遺跡 (縄文時代前期/中期/晩期)	
25 堂久保遺跡 (縄文時代中期)	
26 城山上遺跡 (縄文時代中期)	
27 辰久保遺跡 (縄文時代中期)	
28 狐平遺跡 (縄文時代中期)	
29 高松遺跡 (縄文時代中期/後期)	
30 酒呑場遺跡 (縄文時代早期/前期/中期、 弥生時代)	
31 東村遺跡 (縄文時代中期、古墳時代)	
32 西村遺跡 (縄文時代中期、古墳時代)	
33 長坂氏屋敷跡 (古墳時代)	
34 大々神遺跡 (古墳時代)	
35 櫻木遺跡 (弥生時代、古墳時代)	
36 原町北遺跡 (古墳時代)	
37 宮久保遺跡 (縄文時代中期)	
38 鏡馬場遺跡 (縄文時代中期/後期/晩期)	
39 大久保遺跡 (縄文時代中期/後期)	
40 下塚敷遺跡 (縄文時代中期)	
41 龍角遺跡 (古墳時代)	
42 西尾敷遺跡 (古墳時代)	
43 龍角西遺跡 (古墳時代)	
44 清水頭遺跡 (縄文時代後期、古墳時代)	

第3章 発見された遺構と遺物

1 1号方形周溝墓(図5～図17・図41・図42・図46)

調査区では最も東側に位置する。周溝外縁は長軸約17.0m、短軸約14.0m、方台部は長軸約11.0m、短軸約10.0m、周溝底部から方台部墳頂までは1.6～1.8mの比高がある。方台部墳頂から西北西の方向に陸橋が認められる。同じく南南東方向の周溝内には、幅0.3mほどにわたり周囲より0.4～0.5mほど浅い部分がある。方台部の墳丘盛り土は周溝確認面から0.9～1.0mの高さがある。方台部墳頂下には4.0×1.8mの掘り方のなかに2.5×0.7mの竪穴遺構が確認できた。埋葬主体部と推測されるが、遺構内部からは副葬品等の遺物は出土しなかった。北東側周溝内には焼土ブロックが確認された。方台部墳頂の現表土直下で上記竪穴遺構の確認面直上からはほぼ完形に近い土器11個体が出土した。その内訳は小型壺3、高坏4、鉢1(以上赤色塗彩されている)、甕2、大型壺1である。ここからは赤色塗彩の土器が最も集中的に出土した。

2 2号方形周溝墓(図5・図18～図24・図41・図42・図46)

1号方形周溝墓の南西に隣接し、周溝の一部を共有している。周溝外縁は長軸約14.5m、短軸約14.0m、方台部は長軸約10.0m、短軸約9.5m、周溝底部から方台部墳頂までは1.0～1.4mの比高がある。方台部中心から西北西の方向に陸橋が認められる。方台部の墳丘盛り土は周溝確認面から0.4～0.5mの高さがある。方台部墳頂下には2.6×1.4mの竪穴遺構があり、1号方形周溝墓と同様に埋葬主体部と推測される。内部からの遺物の出土はなかった。竪穴遺構確認面直上からは小型壺1、甕2、高坏1の計4個体の土器が出土した。また陸橋部分南側の周溝内覆土からは高坏や有段口縁壺、S字状口縁台付甕などの土器が比較的まとまって出土した。なお、方台部墳丘は広域農道路線の掘削部分から外れているので、墳頂部表面のみの調査にとどめ墳丘本体の発掘は行なわなかった。

3 3号方形周溝墓(図5・図25～図46・図43・図44)

2号方形周溝墓の南西に位置し、本調査内で最大規模の周溝墓である。周溝外縁は長軸約22.5m、短軸約22.0m、方台部は長軸約15.5m、短軸約14.0m、周溝底部から方台部墳頂までは2.2～2.8mほどの比高がある。方台部中心から南西の方向に陸橋が認められる。方台部の墳丘盛り土は周溝確認面から1.4～1.6mほどの高さがある。方台部墳頂下には3.2×1.0mの竪穴遺構が2基のほかに、径0.5～1.0mほどの不整形なピットが4基確認されたが、墳頂部分は植林等による攪乱を受けていた。

竪穴遺構確認面直上からは小型壺9、甕1、甕3、高坏10の計23個体が復元できた。高坏の1個体

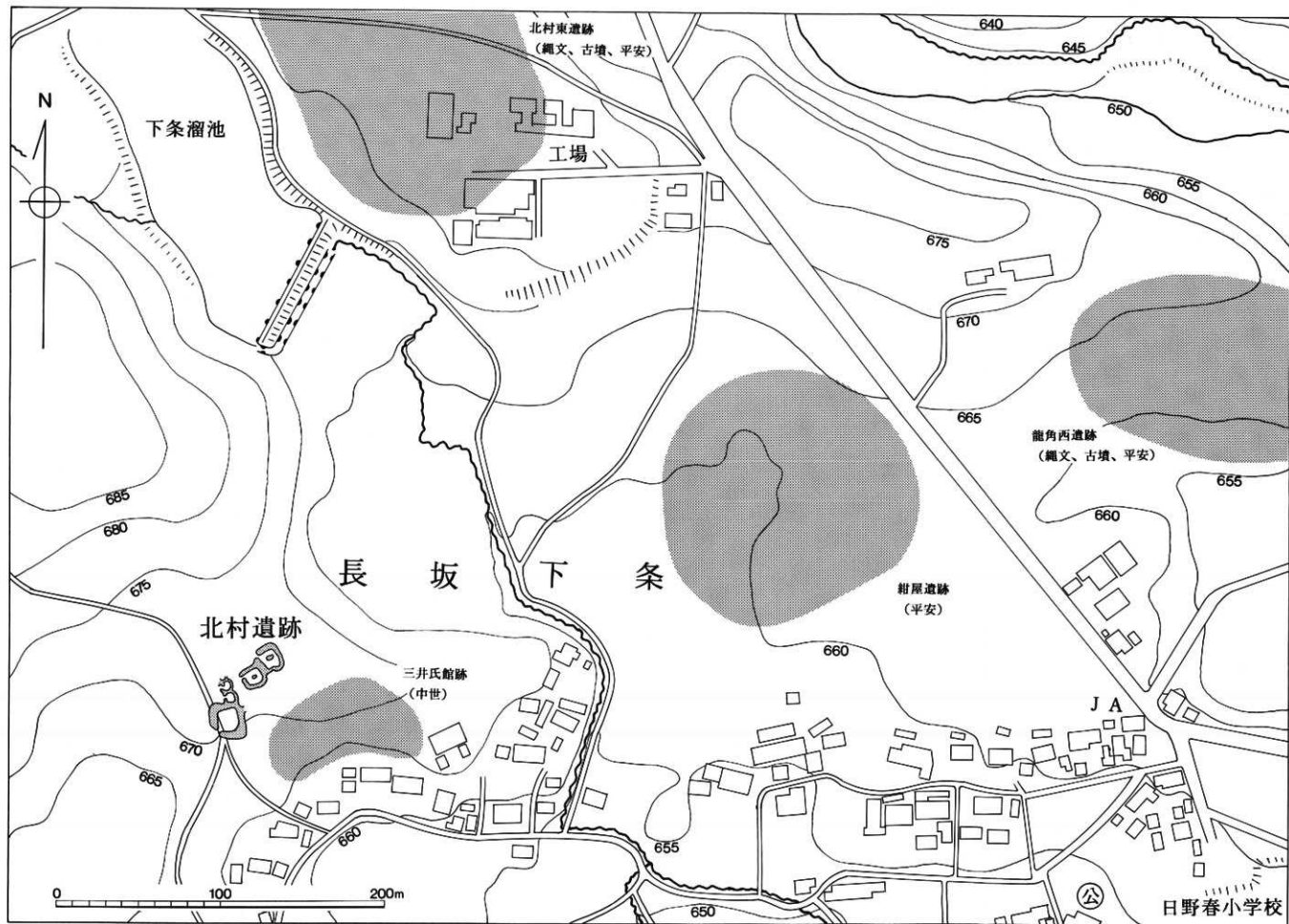


図3 北村遺跡位置図

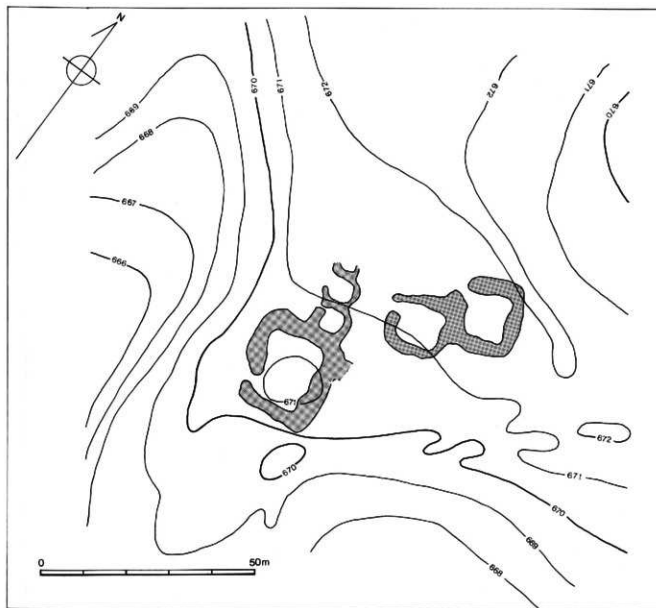


图4 北村遺跡周辺地形図

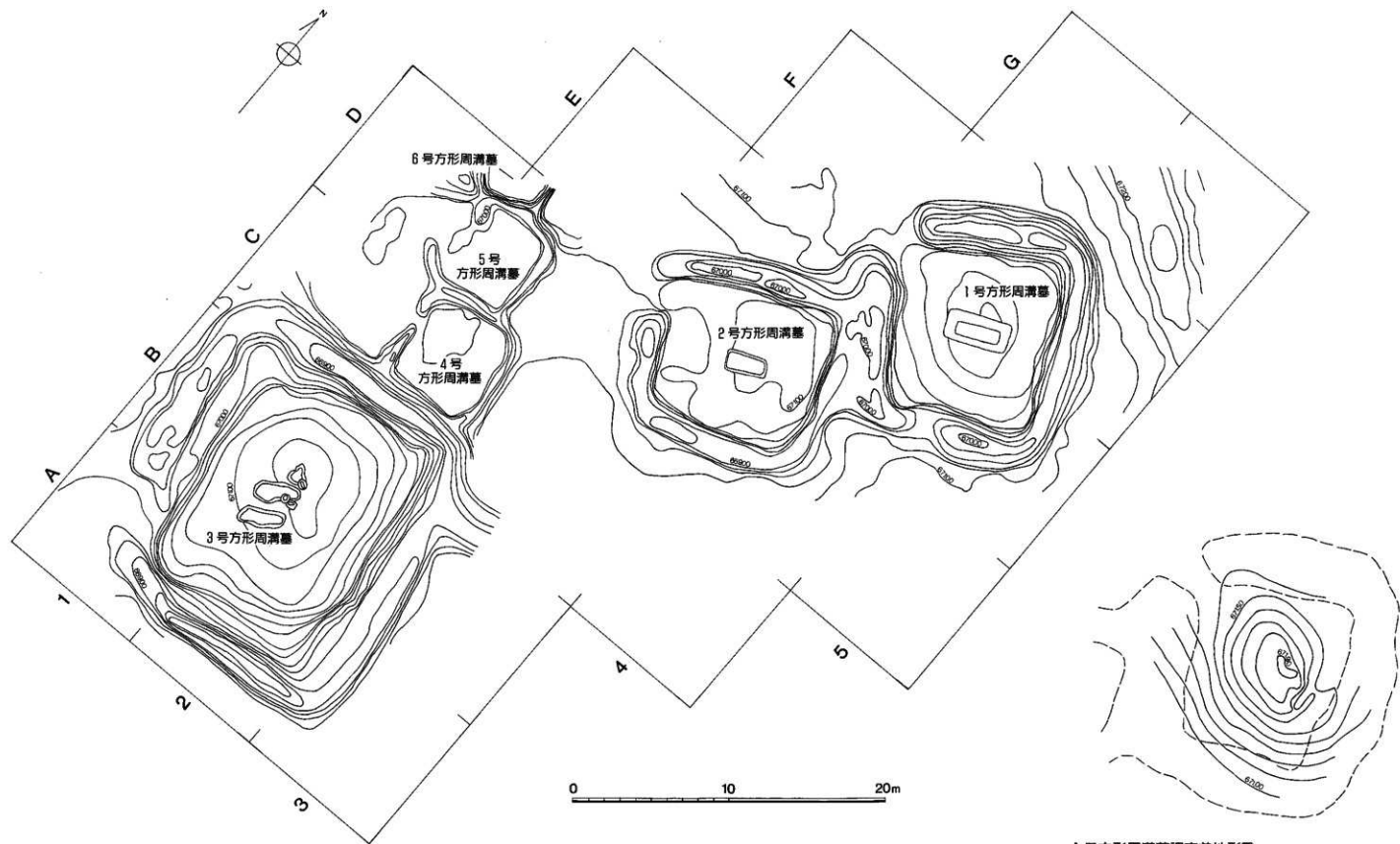


図5 北村遺跡全体測量図

1号方形周溝墓調査前地形図
(破線は周溝確認面)

は赤色塗彩されている。2号周溝墓同様、方台部墳丘は開発路線掘削部分から外れているため、調査は墳頂部表面にとどめている。東側周溝から東の調査区外方向へ直行するように、別の溝状遺構が確認されることから隣接した方形周溝墓が存在する可能性がある。

4 4～6号方形周溝墓(図5・図37～図40・図45)

4～6号の方形周溝墓は3号方形周溝墓に北接し、それぞれ周溝の1辺ずつを共有している。6号方形周溝墓は調査区から外れる部分が多いが、これら3基の周溝墓は周溝外縁が6～8mほどの小型のものであり、周溝1辺の長さでは1・2号方形周溝墓の約1/2、3号方形周溝墓の約1/3となる。4号及び5号方形周溝墓の方台部は重機による表土剥ぎの際に、その存在を確認できず過って掘削してしまった可能性が高く、周溝のみの確認にとどまった。また埋葬施設に関連するような遺構も確認できなかった。6号方形周溝墓は周溝1辺のみの調査であるが、周溝内から壺や高坏など数点の土器が出土した。

5 出土遺物の検討(図41～図47・表2・表3)

出土遺物の主要属性については表2・3に示した。遺物は土器と石器のみで玉類等の出土はなかった。土器については出土地点ごとに3期の区分を試みた(土器変遷図:50・51頁)。I期は1～3号方形周溝墓の各墳頂出土土器を主体として、小型壺や無穿孔の脚をもつ高坏、赤色塗彩された土器類が特徴である。II期は6号方形周溝墓出土土器で、穿孔されたやや開脚きみの高坏がある。III期は1～3号方形周溝墓の各周溝覆土から出土した土器で、台付蓋や穿孔された裾部が広がるタイプの脚をもつ高坏を特徴とする。近年の小林健二氏の編年²⁾に従えばそれぞれI期=2。期、II期=3期古段階、III期=3期新段階に相当し、本遺跡の土器類は甲府盆地方面の中道町上の平遺跡方形周溝墓群³⁾のものとはほぼ同一時期と考えられる。石器は打製石斧や剥片系のものがあり、2点を除き周溝内からの出土である。縄文時代等の他時期遺物の混入は認められず、周溝墓の築造・廃棄に際してこれら石器類が使用された可能性もある。

2) 小林健二1993「山梨県域の土器様相」『東日本における古墳出現過程の再検討』238-247頁

日本考古学協会新潟大会シンポジウム資料

3) 山梨県教育委員会1991「上の平遺跡」

岡1993「東山北遺跡」

中山誠二1986「甲府盆地における古墳出現期の土器様相」『山梨考古学論集』1 205—238頁

山梨県考古学協会

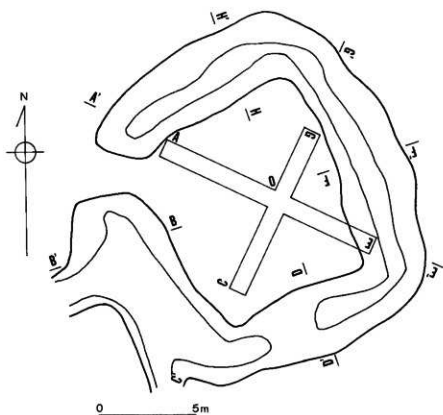


図6 1号方形周溝墓 セクションポイント配置図(図7~14)

- I a 暗褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I b I aよりやや明るい褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I c 黄褐色土、黄褐色土(ローム)粒子を多量に含む、粒子不均密、しまりなし
- I d 褐色土、黄褐色土粒子を少量含む、粒子不均密、しまりなし
- I e 黄褐色土、黄褐色土粒子を多量に含む、粒子均密、しまりなし
- II a 黒色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりなし
- II b II aよりやや明るい暗褐色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりなし
- II c 褐色土、わずかに炭化物を含む、粒子不均密、ややしまりあり
- III a 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- III b III aより明るい褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- III c III aより暗い褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- IV 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- V a 黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
- V b 黄褐色土、径3~8cmの黄褐色土ブロックを多量に含む、しまりなし
- VI 黄褐色土、粒子均密、しまりあり

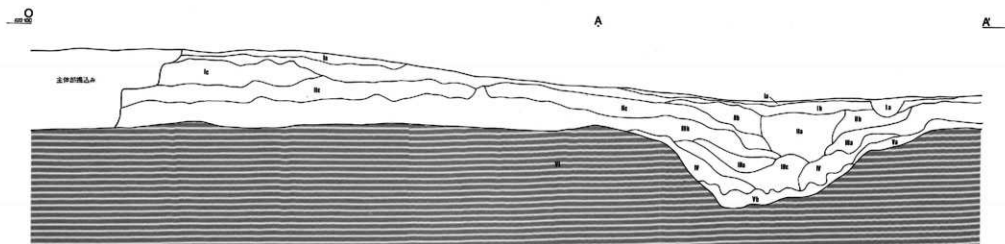


図7 セクション (O-A-A')

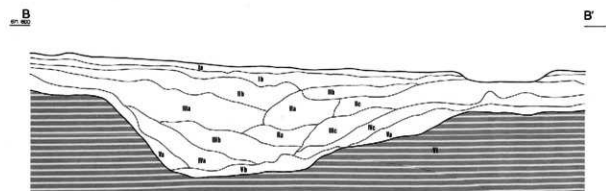


図8 セクション (B-B')

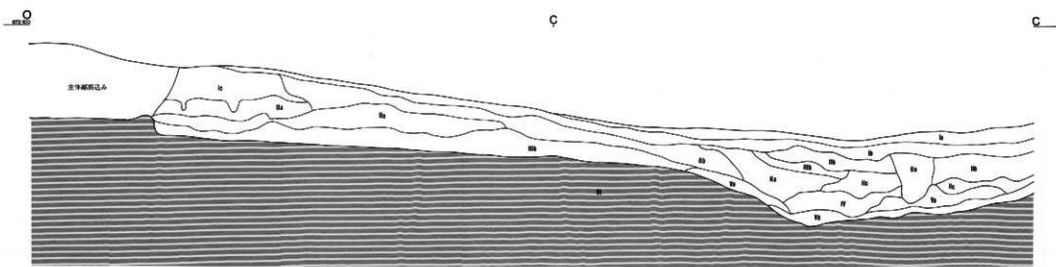


図9 セクション (O-C-C')

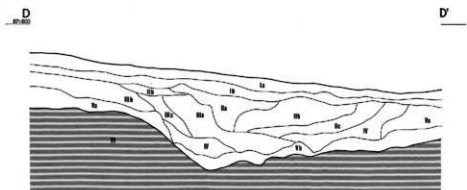


図10 セクション (D-D')

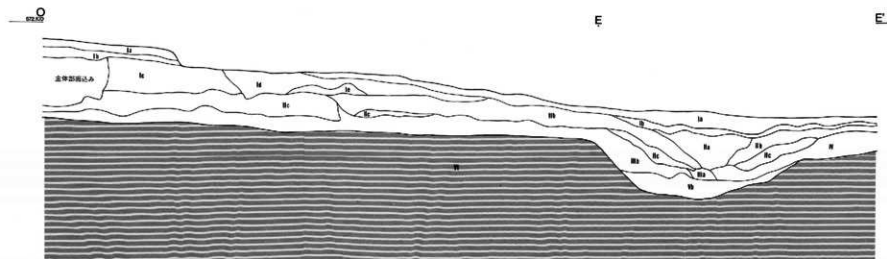


図11 セクション (O-E-E')

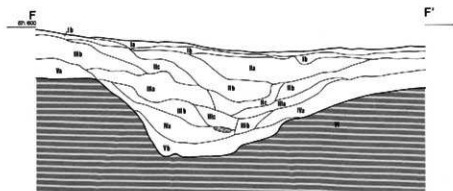


図12 セクション (F-F')

2000 米



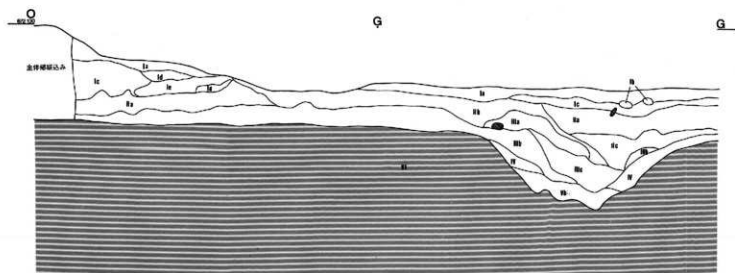


図13 セクション (O-G-G')

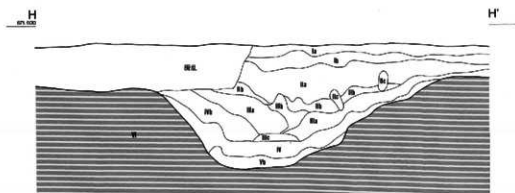
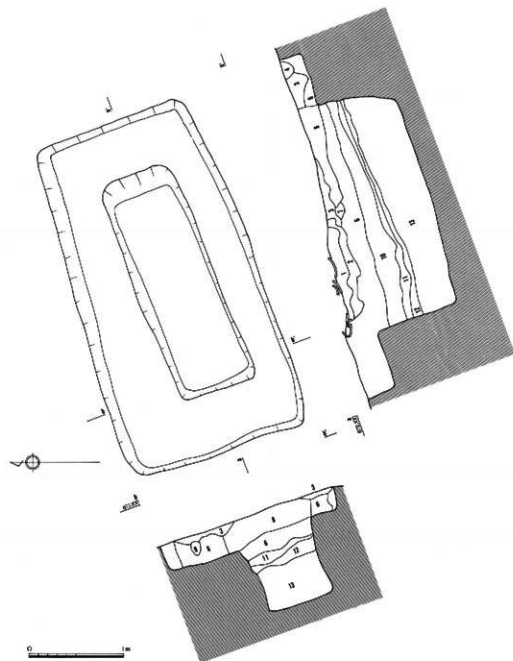


図14 セクション (H-H')



- 1 暗褐色土、粒子均密、しまりなし、土器出土
- 2 褐色土、粒子やや均密、しまりなし
- 3 黄褐色土、ブロック (径0.5~1 cm) 状粒子を多く含む、しまりなし
- 4 1に同じ
- 5 3に同じ
- 6 黄暗褐色土、黄褐色土ブロック (径1~4 cm) を多量に含む、しまりあり
- 7 樹根による攪乱
- 8 黄暗褐色土、粒子均密、しまりあり
- 9 黄暗褐色土、黄褐色土ブロック (径1~4 cm) を多量に含む、しまりなし
- 10 黄暗褐色土、黄暗褐色土ブロック (径0.5~1 cm) を含む、しまりあり
- 11 黄暗褐色土、黄褐色土ブロック (径2~4 cm) を多量に含む、しまりあり
- 12 黄暗褐色土、黄褐色土ブロック (径2~8 cm) を多量に含む、しまりあり
- 13 黄褐色土、粒子均密、しまりあり

図15 1号方形周溝墓頂部層序

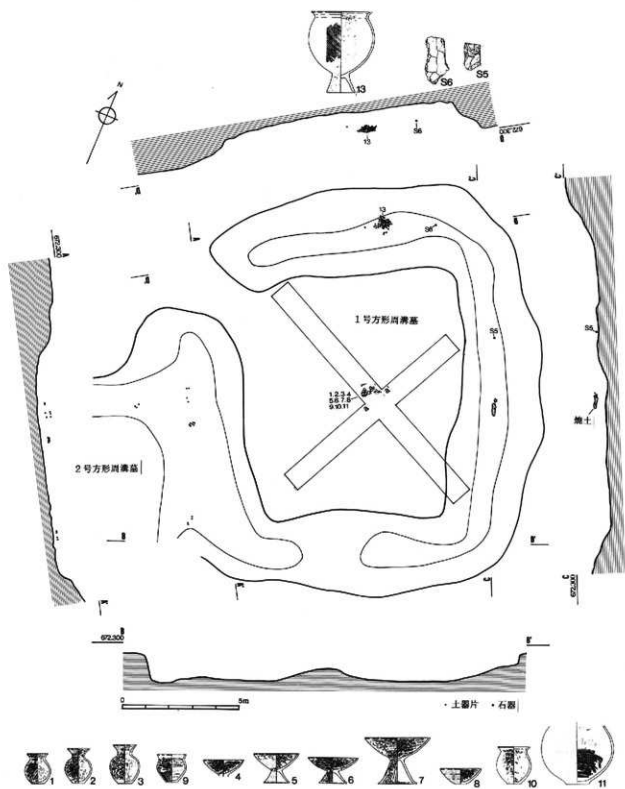


图16 1号方形周溝墓遺物出土状况

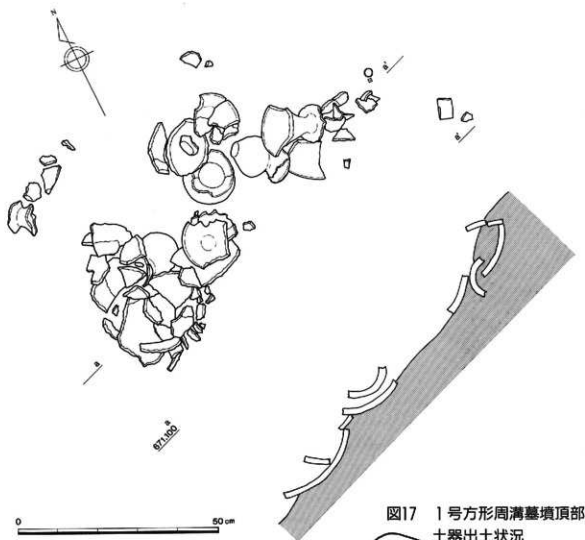


図17 1号方形周溝墓墳頂部
土器出土状況

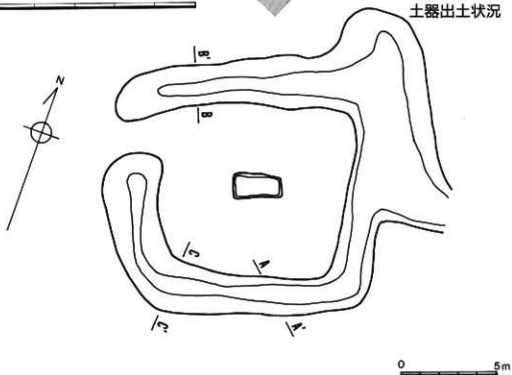


図18 2号方形周溝墓セクションポイント配置図 (図19~21)

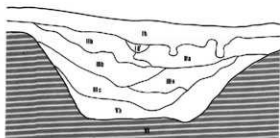


図19 セクション (A-A')

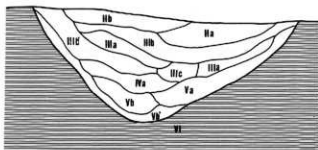


図20 セクション (B-B')

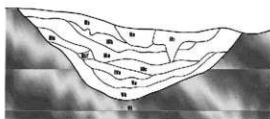


図21 セクション (C-C')

0 1 2m

- I a 暗褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I b I aよりやや明るい褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I c 黄褐色土、黄褐色土（ローム）粒子を多量に含む、粒子不均密、しまりなし
- I d 褐色土、黄褐色土粒子を少量含む、粒子不均密、しまりなし
- I e 黄褐色土、黄褐色土粒子を多量に含む、粒子均密、しまりなし
- II a 黒色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりなし
- II b II aよりやや明るい暗褐色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりなし
- II c 褐色土、わずかに炭化物を含む、粒子不均密、ややしまりあり
- III a 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- III b III aより明るい褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- III c III aより暗い褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- IV 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- V a 黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
- V b 黄褐色土、径3～8cmの黄褐色土ブロックを多量に含む、しまりなし
- VI 黄褐色土、粒子均密、しまりあり

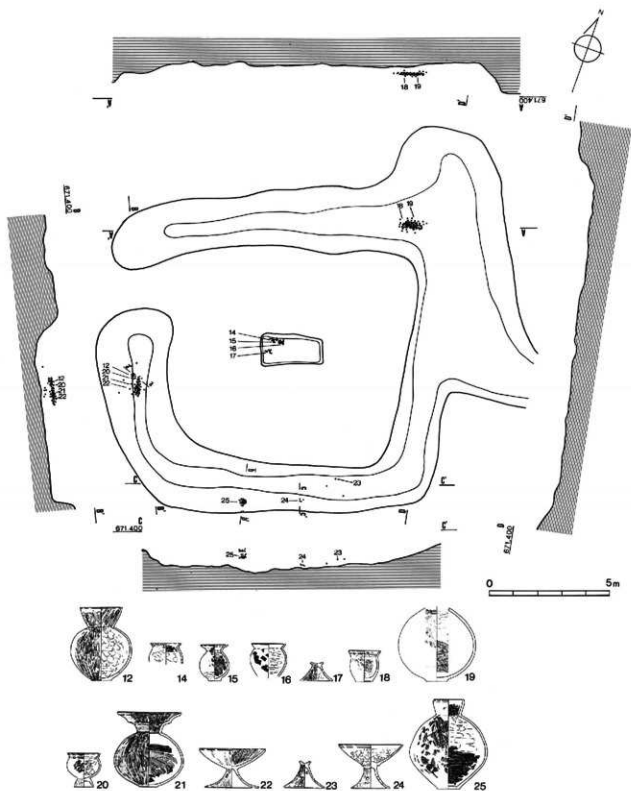
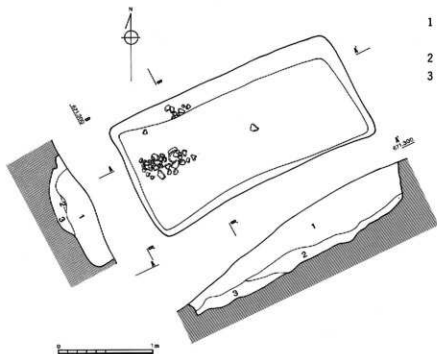


图22 2号方形周青铜墓遗物出土状况



- 1 やや明るい黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
(1cm~3cm大のロームブロック含む)
- 2 黄暗褐色土、粒子不均密、しまりなし
- 3 暗黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
(1cm~3cm大のロームブロック)

図23 2号方形周溝墓墳頂部層序・土器出土状況

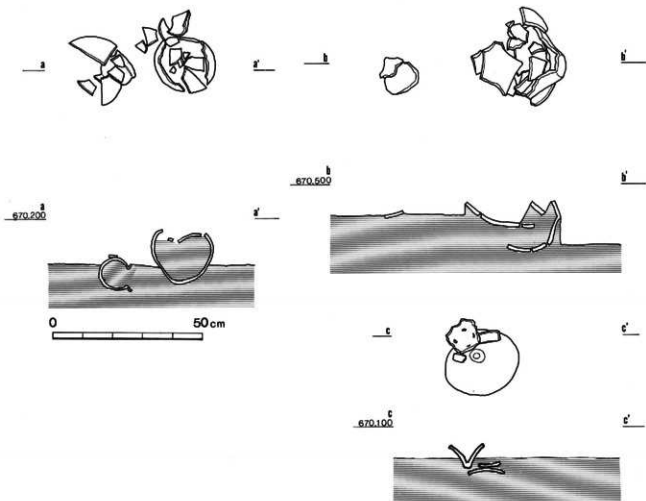


図24 2号方形周溝墓周溝内土器出土状況

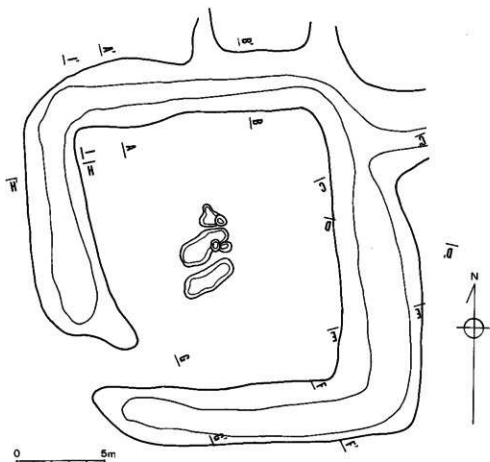


図25 3号方形周溝墓セクションポイント配置図 (図26~34)

- I a 暗褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I b I aよりやや明るい褐色土、粒子不均密、しまりなし
- I c 黄褐色土、黄褐色土（ローム）粒子を多量に含む、粒子不均密、しまりなし
- I d 褐色土、黄褐色土粒子を少量含む、粒子不均密、しまりなし
- I e 黄褐色土、黄褐色土粒子を多量に含む、粒子均密、しまりなし
- II a 黒色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりなし
- II b II aよりやや明るい暗褐色土、わずかに黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりなし
- II c 褐色土、わずかに炭化物を含む、粒子不均密、ややしまりあり
- III a 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- III b III aより明るい褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- III c III aより暗い褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子不均密、しまりあり
- IV 暗褐色土、黄褐色土粒子を含む、粒子均密、しまりあり
- V a 黄褐色土、粒子不均密、しまりなし
- V b 黄褐色土、径3~8cmの黄褐色土ブロックを多量に含む、しまりなし
- VI 黄褐色土、粒子均密、しまりあり

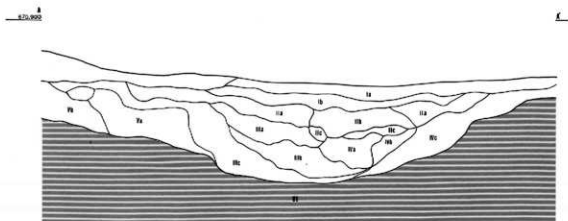


図26 セクション (A-A')

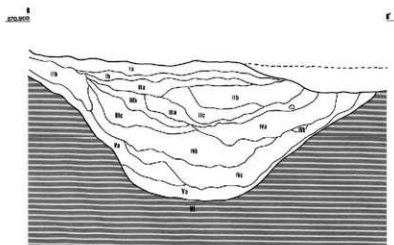


図27 セクション (B-B')

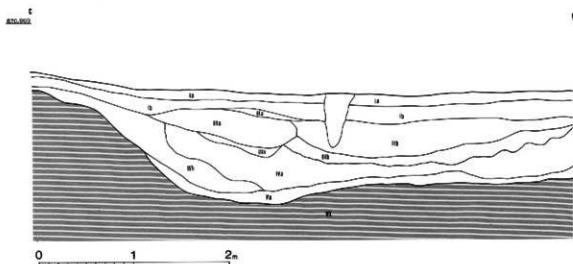


図28 セクション (C-C')

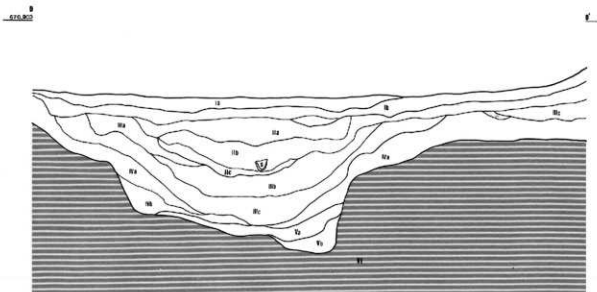


図29 セクション (D-D')

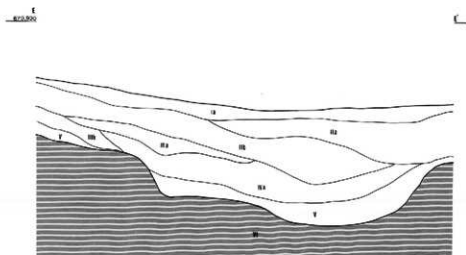


図30 セクション (E-E')

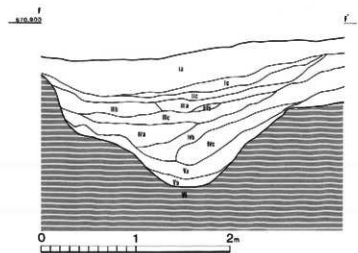


図31 セクション (F-F')

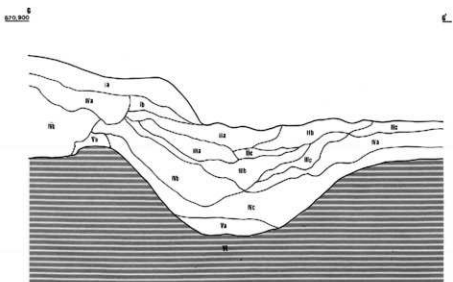


図32 セクション (G-G')

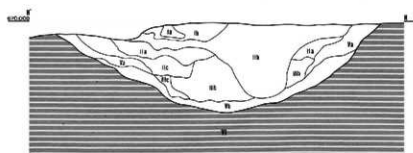


図33 セクション (H'-H)

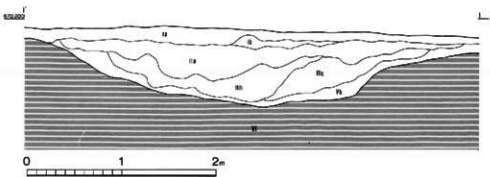


図34 セクション (I'-I)

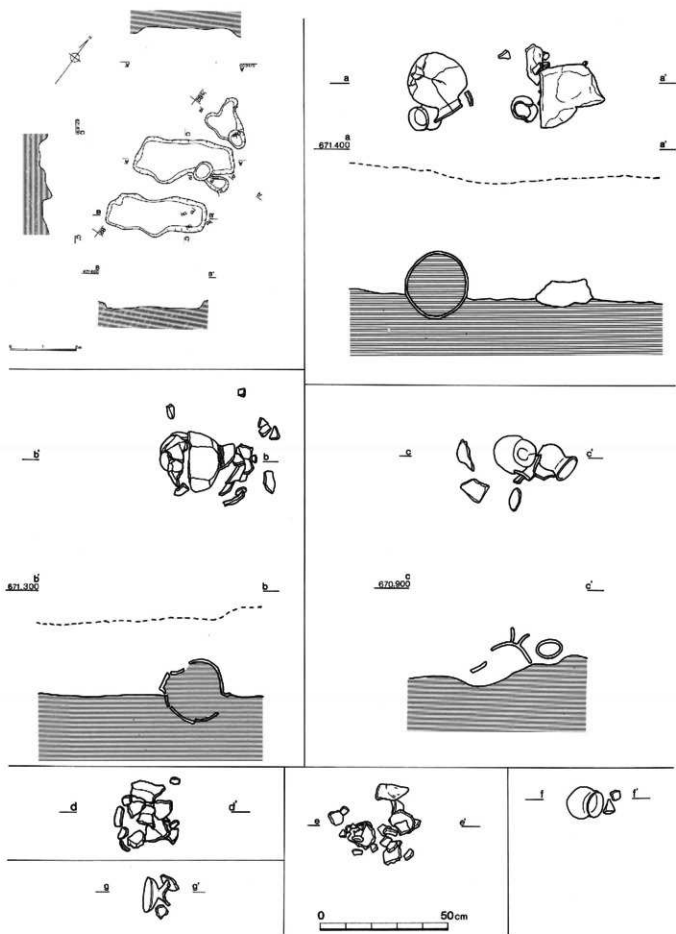


图35 3号方形周溝墓填頂部周边土器出土状况

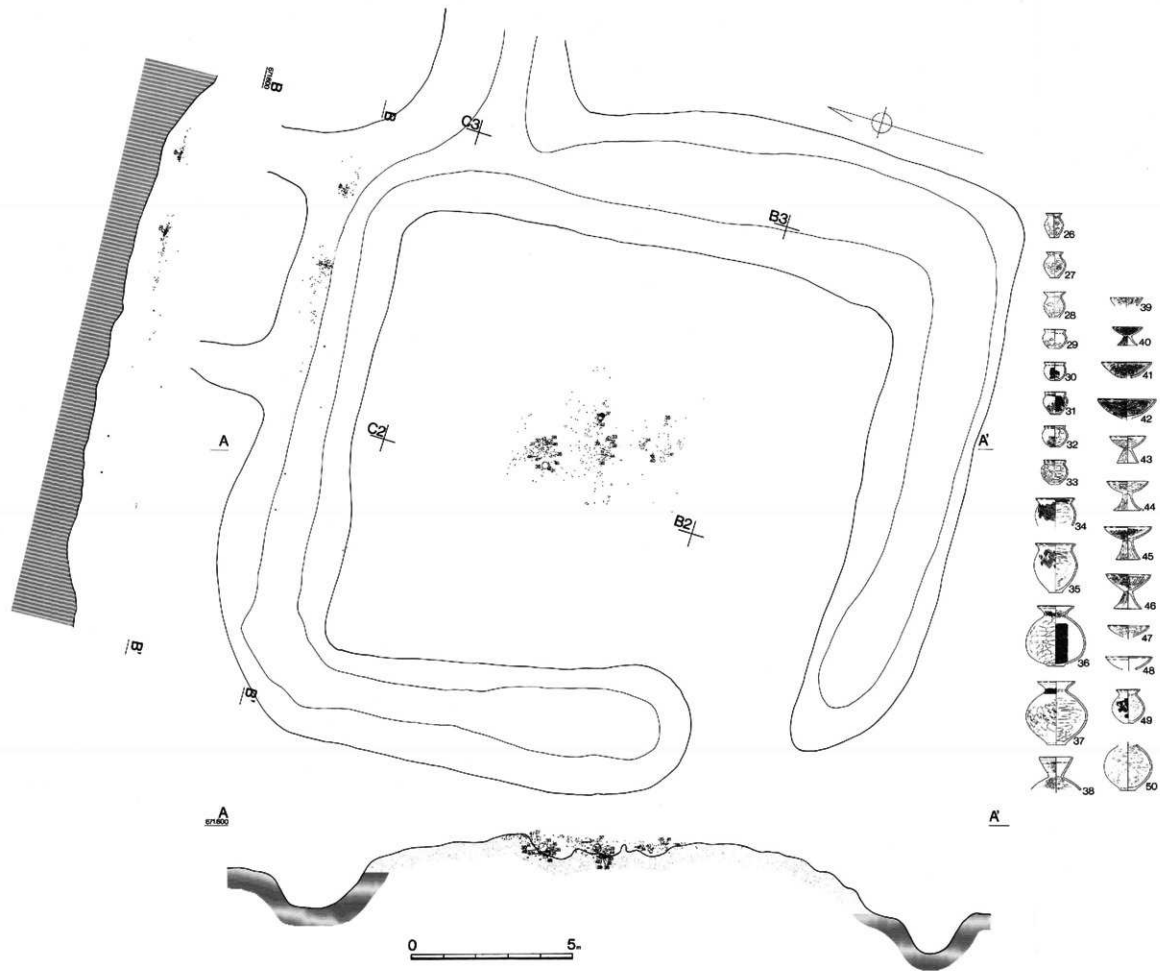


图36 3号方形周溝墓



图37 4号方形周溝墓

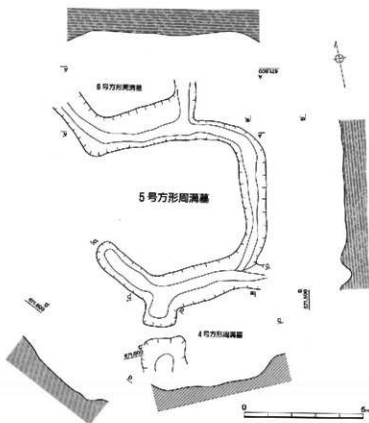


图38 5号方形周溝墓

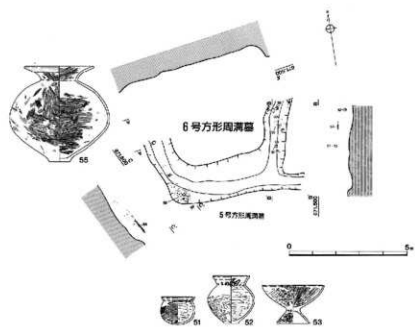


图39 6号方形周墓

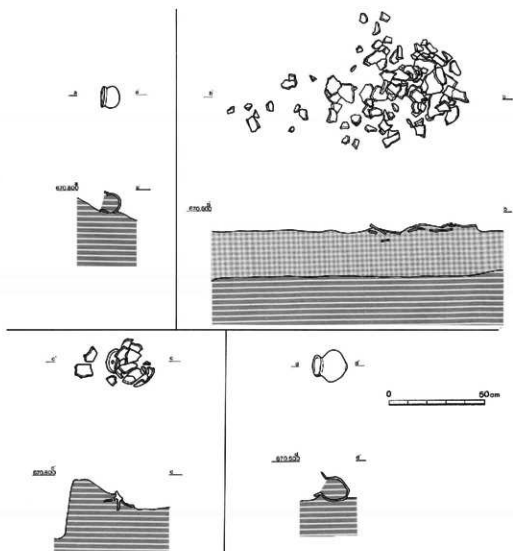
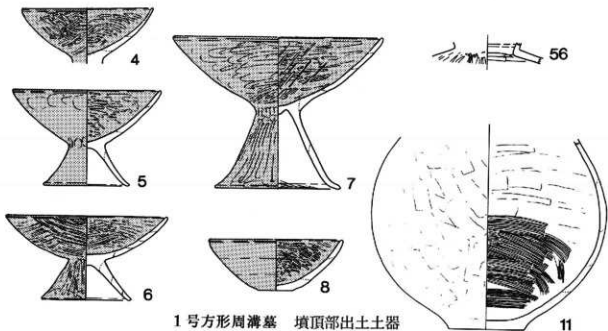
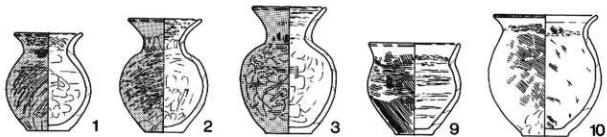
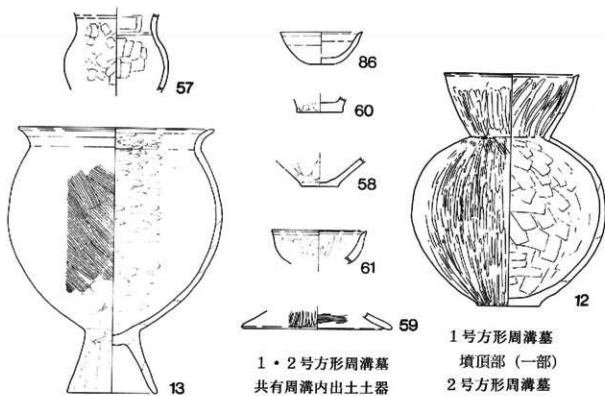


图40 6号方形周墓周沟内土器出土状况



1号方形周溝墓 填頂部出土土器



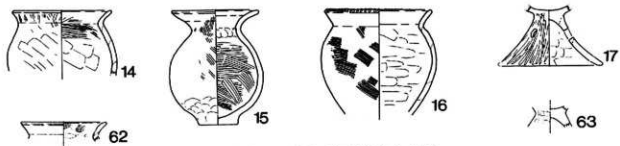
1・2号方形周溝墓
共有周溝内出土土器

1号方形周溝墓
填頂部(一部)
2号方形周溝墓
周溝内出土土器

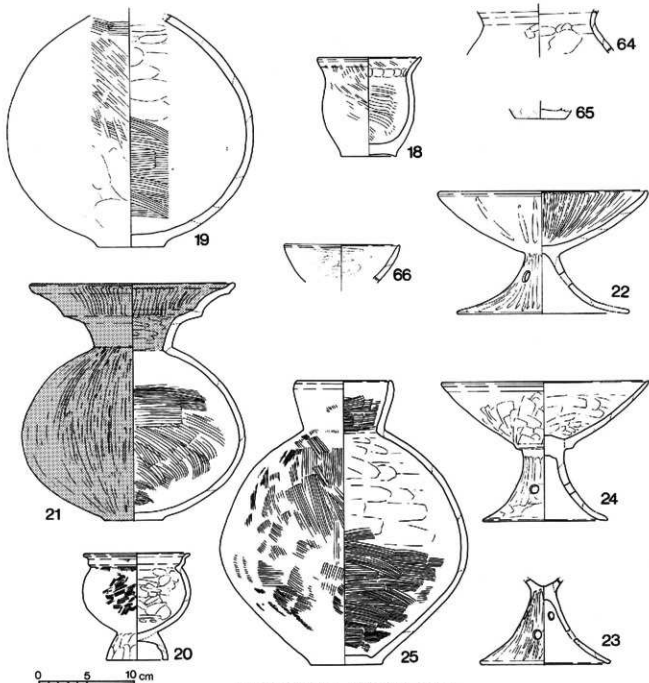
1号方形周溝墓 周溝内出土土器

0 5 10cm

图41 出土土器(1)

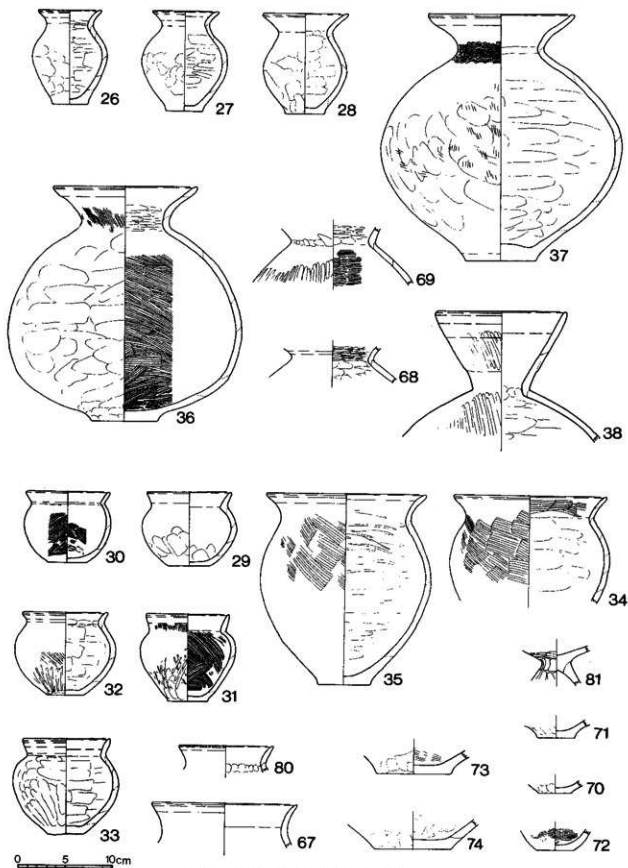


2号方形周溝墓 墳頂部出土土器



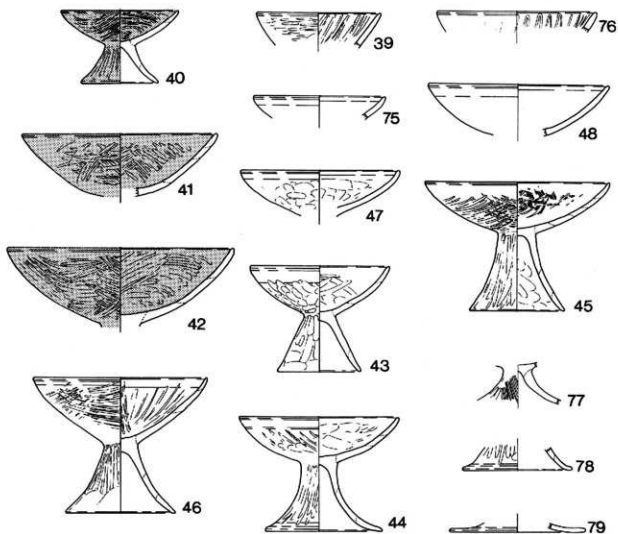
2号方形周溝墓 周溝内出土土器

图42 出土土器(2)

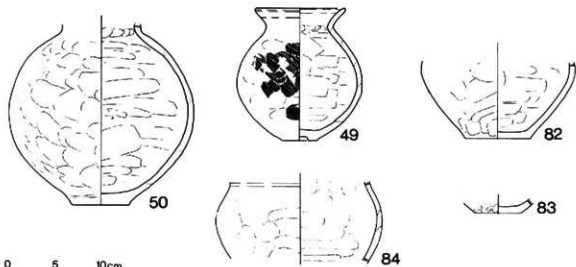


3号方形周溝墓 墳頂部出土土器

圖43 出土土器(3)



3号方形周溝墓 墳頂部出土土器



0 5 10cm

3号方形周溝墓 周溝内出土土器

图44 出土土器(4)

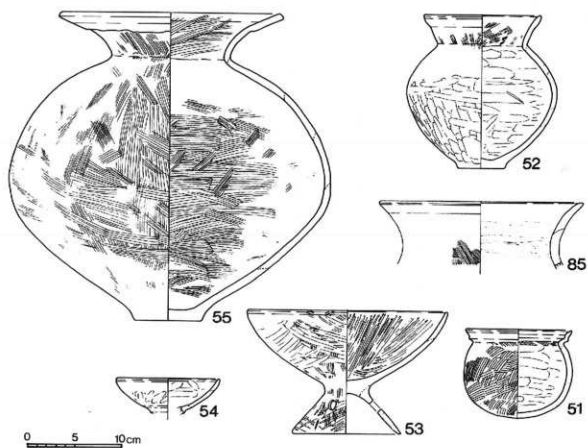
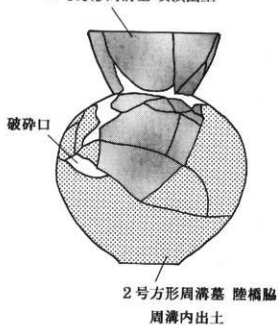


図45 出土土器⑤

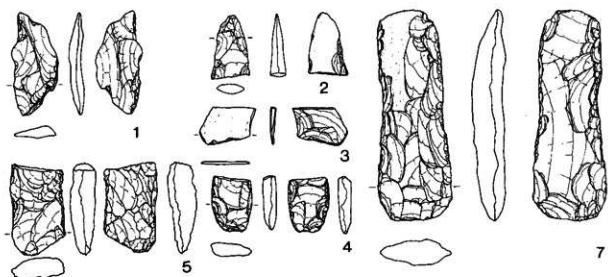
6号方形周溝墓 周溝内出土土器

1号方形周溝墓 墳頂出土

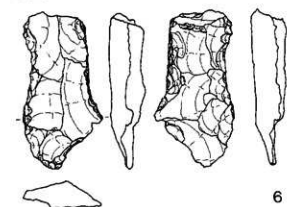


2号方形周溝墓 陸橋脇
周溝内出土

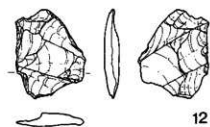
図46 土器No12の出土場所および接合状況



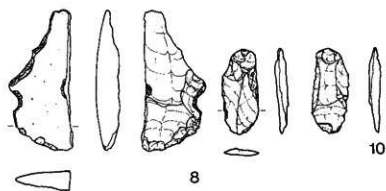
1号方形周满墓 周边表探



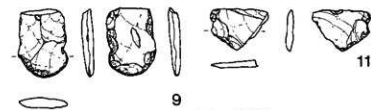
1号方形周满墓 (1填丘部 2~6周满内)



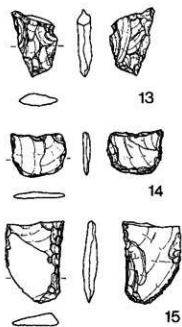
12



2号方形周满墓 周满内



0 5 10cm



3号方形周满墓 周满内

图47 出土石器

表3 北村遺跡 石器計測表

遺物 番号	遺 構 名	器 種	残存率 (%)	寸法 (cm)			重 量 (g)	石 材	特 徴
				長 寸	幅	厚 寸			
1	1号方形周溝墓 墳頂	フレーク		10.9	4.7	1.3	65	頁岩	
2	〃 周溝内	打製石斧	50	6.7	4.1	1.6	45	安山岩	刃部破損
3	〃 (D区)	横刃型石斧	90	3.9	5.2	0.6	18	頁岩	両側縁破損
4	〃 (F区)	打製石斧		5.9	4.2	1.4	65	泥岩	
5	〃 (〃)	打製石斧		9.7	5.6	2.7	185	泥岩	基部破損
6	〃 (G区)	打製石斧		16.6	8.5	3.6	440	泥岩	基部折損・刃部破損
7	1号周溝墓周辺 (表採)	打製石斧		24.2	7.8	3.2	740	安山岩	基部に強面を残す
8	2号方形周溝墓 周溝内 (A区)	打製石斧?	100?	9.8	6.3	2.4	245	安山岩	
9	〃 (〃)	打製石斧		7.2	5.0	1.2	80	硬質砂岩	基部破損
10	〃 (〃)	刀石		9.1	3.9	1.3	45	頁岩	強面を残す
11	〃 (B区)	打製石斧	(未測定) 50	4.3	6.2	0.8	20	頁岩	
12	3号方形周溝墓	打製石斧		9.4	7.4	1.6	105	泥岩	刃部一部破損
13	〃	打製石斧		7.1	5.6	1.4	50	泥岩	基部破損
14	〃 周溝内 (D区)	打製石斧	(未測定) 50	4.7	5.8	0.0	25	泥岩	基部破損
15	〃 (〃)	打製石斧	50	8.7	6.0	1.4	88	硬質砂岩	右側縁下方に刃部調整 あり

第4章 調査のまとめ

2ヶ年にわたる本遺跡の調査はほとんどが冬期に行なわれ、標高700mの寒気は一夜にして10cmを超える厚さで包含層を水浸させた。また筆者も含め調査従事者全てが方形周溝墓の調査は初体験という劣悪な調査環境にあって、本遺跡の調査精度は学術的には低レベルであったといわざるをえない。しかしながら、北巨摩郡下市町村の各文化財担当者や県内外研究者各位の積極的なご援助により、不備ながらも報告が実りここに感謝する次第である。

本遺跡は次の2点において大きな意味を持つ。一つは八ヶ岳山麓において方形周溝墓群の存在が確認されたことである。これまで山梨県地域では古墳初頭期の考古資料分布が甲府盆地方面に極端に偏っていたため、その歴史過程の説明もいわば甲府盆地中心史観のごとき傾向が少なからずあった。この意味において本遺跡考古資料は、充実した資料内容がある縄文時代の後の八ヶ岳山麓、北巨摩地方が、いかなる変遷をたどったのかを解き明かしていくための材料の一つになろう。当地域では北村遺跡の他にも、玉崎市取井南遺跡ではほぼ同時期の方形周溝墓群や集落跡が報告されつつあり¹⁾、古墳時代初頭期の資料の充実が見込まれている。もう一点は1号や3号方形周溝墓にみられる墳丘の存在によって方形周溝墓の全体構造がよりよく推測されることである。山梨県地域においても方台部の立体構造が判明している例は本遺跡を除いて皆無であり、今後到高塚系墳墓との関わりも含めて研究の進展が期待される。他にも例えば遺物の出土状況で、赤色塗彩された土器群がほぼ1号方形周溝墓墳頂部分のみに集中し、葬送儀礼が土器出土状況に影響することを予測させるような好資料も得られた。

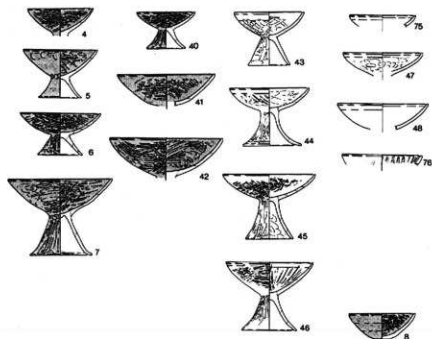
本報告書では整理作業時間の短さや紙数の制限により事実記載中心となり、十分な考察を加えることができなかったが、今後北巨摩市町村文化財担当者会などの場で研究成果を深めていきたい。遺跡内容に対する大方のご指摘をいただきたいと思う。

1) 藍崎市教育委員会1988「坂井南遺跡」

北村遺跡土器変遷

	甕	壺
I 期	<p>34, 9, 10, 35, 14, 18, 80</p>	<p>1, 15, 29, 36, 2, 26, 31, 30, 3, 27, 32, 28, 33, 37</p>
II 期	<p>51</p>	<p>52, 55</p>
III 期	<p>19, 20</p>	<p>21</p>

高坏・鉢



1号方形周溝墓 墳丘部
1、2、3、4、5、6、7、8、9、10

2号方形周溝墓 墳丘部
14、15、16

3号方形周溝墓 墳丘部
26、27、28、29、30、31、32、33
34、35、36、37、40、41、42、43
44、45、46、47、48、75、76、80



6号方形周溝墓 周溝内
51、52、53、55



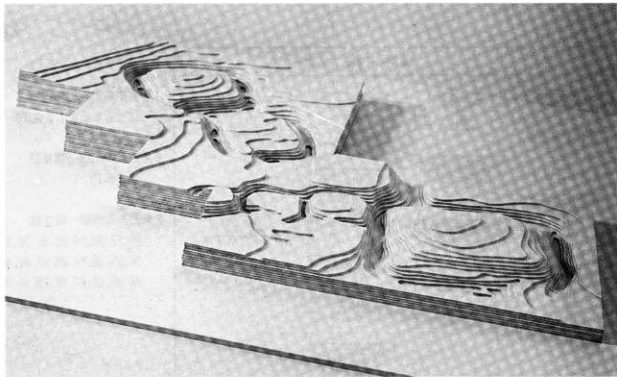
1号方形周溝墓 周溝内
13



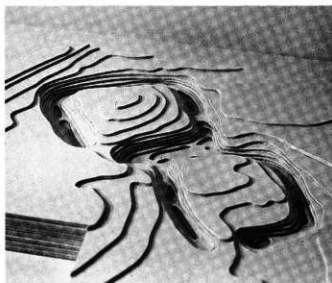
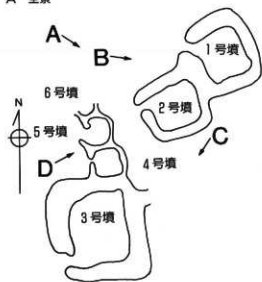
2号方形周溝墓 周溝内
18、20、21、22、23、24、66



2号方形周溝墓 墳丘部
17



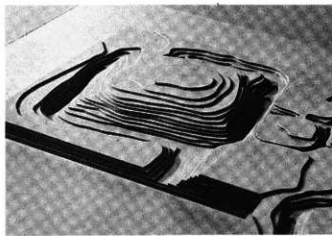
A 全景



B1・2号方形周溝墓周辺



D4・5・6号方形周溝墓周辺



C3号方形周溝墓周辺

図版1 北村遺跡方形周溝墓積層模型



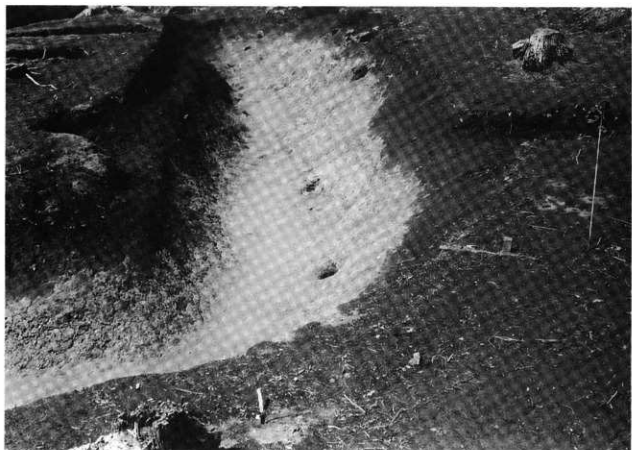
图版 2 1号方形周溝墓全景



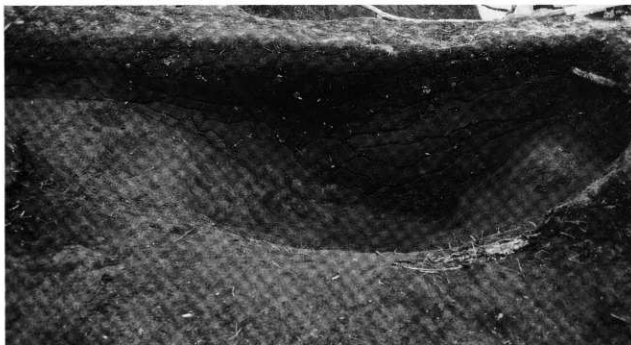
图版 3 1号方形周溝墓墳頂部周边



图版 4 1号方形周溝墓頂部遺物出土狀況



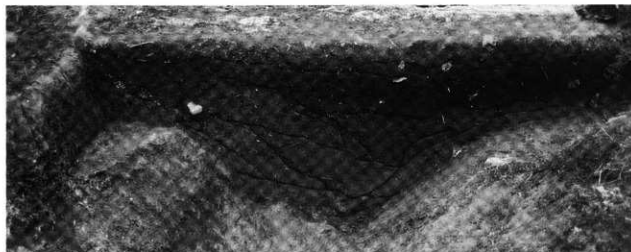
图版 5 1号方形周溝墓北側周溝



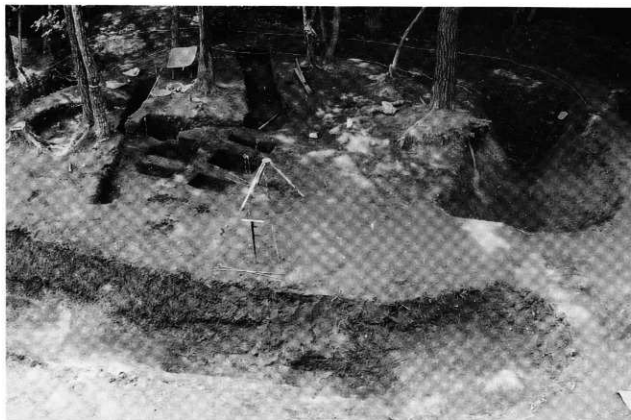
図版 6 1号方形周溝墓土層A-A' (手前は陸橋)



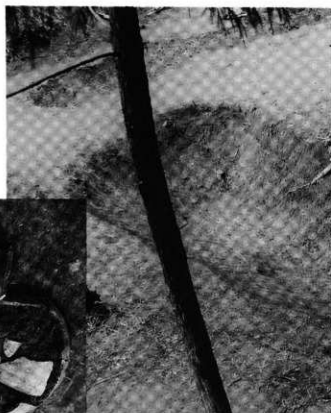
図版 7 1号方形周溝墓土層F-F' (下方に焼土が見える)



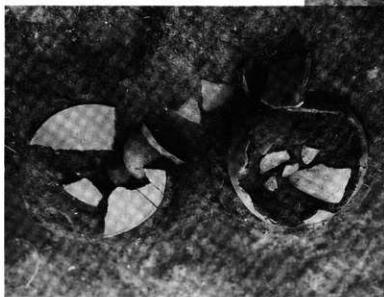
図版 8 1号方形周溝墓土層G-G'



図版9 2号方形周溝墓全景



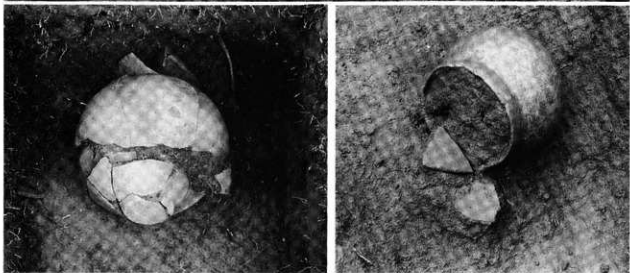
図版10 2号方形周溝墓西側周溝
(後方に陸橋が見える)



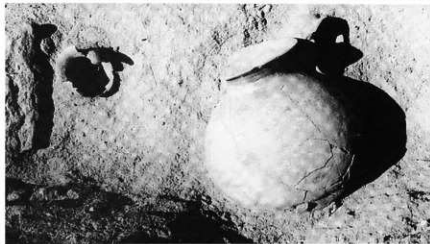
図版11 2号方形周溝墓遺物出土状況
(右の写真の陸橋の手前の周溝内)



图版12 3号方形周溝墓全景



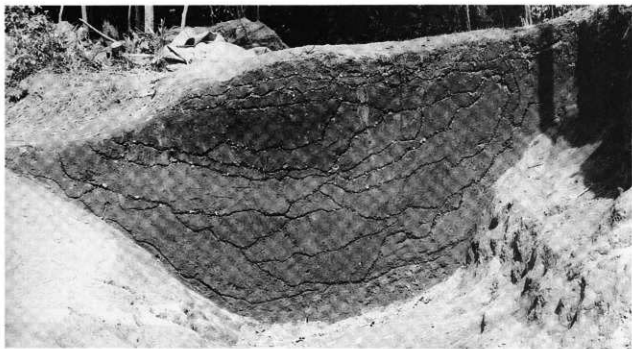
图版13 3号方形周溝墓墳頂部周辺遺物出土状況(1)



图版14 3号方形周满墓填
顶部周边遗物出土
状况(2)



图版15 3号方形周满墓北侧周溝



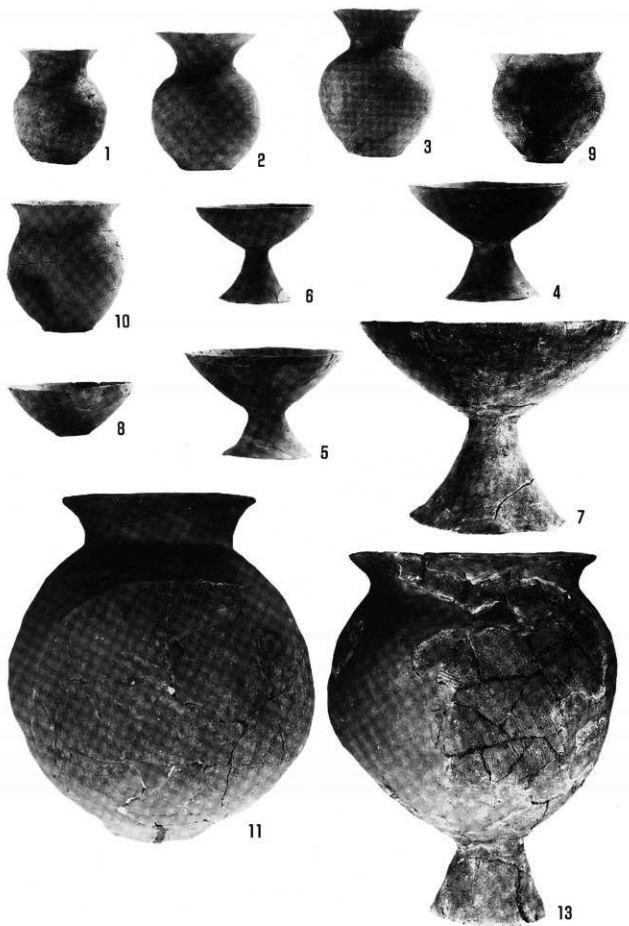
图版16 3号方形周溝墓B—B'土层



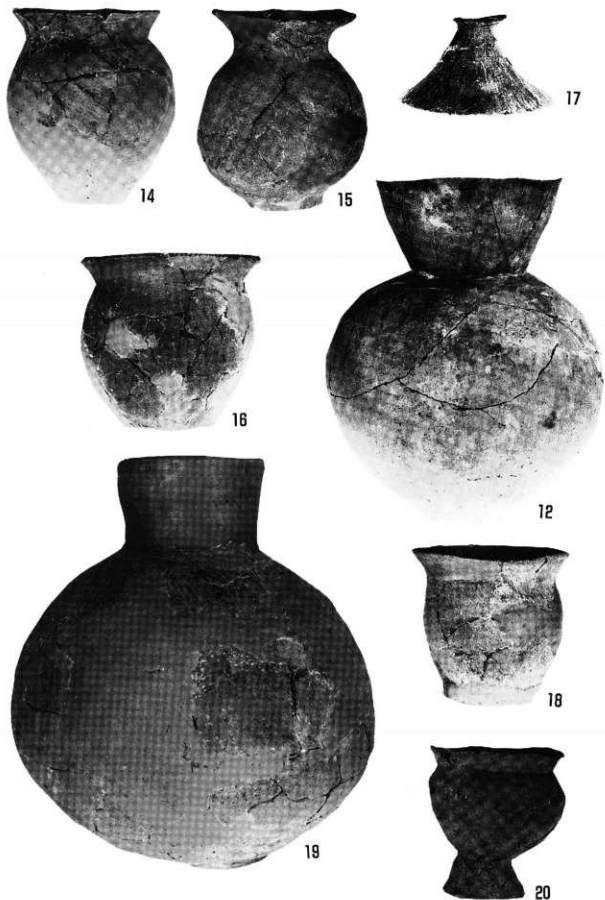
图版17 3号方形周溝墓A—A'土层



图版18 1号方形周溝墓填頂部出土土器



图版19 1号方形周溝墓出土土器（1~11填頂部、12周溝内）



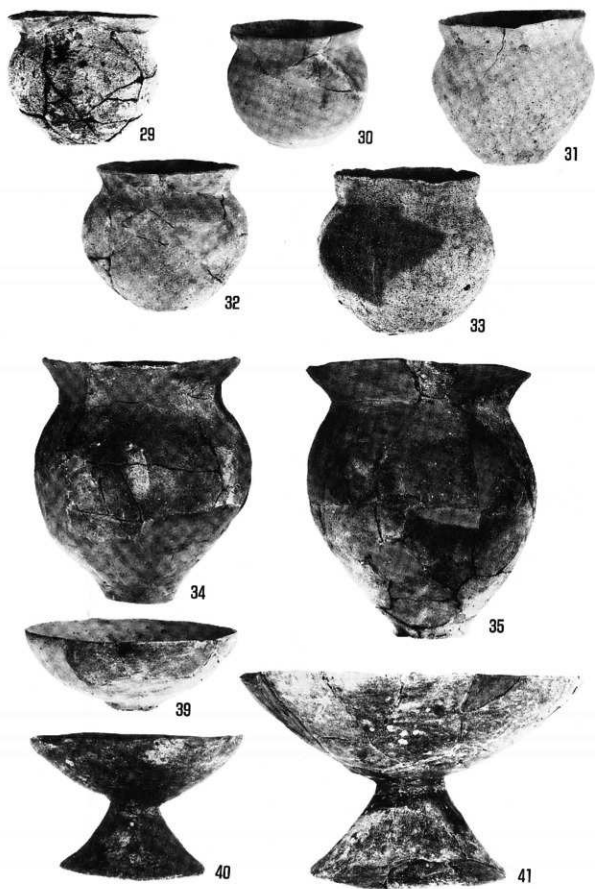
图版20 2号方形周满墓出土土器（14~17填顶部、18~20周沟内、12周沟内、一部1号方形周满墓填顶部）



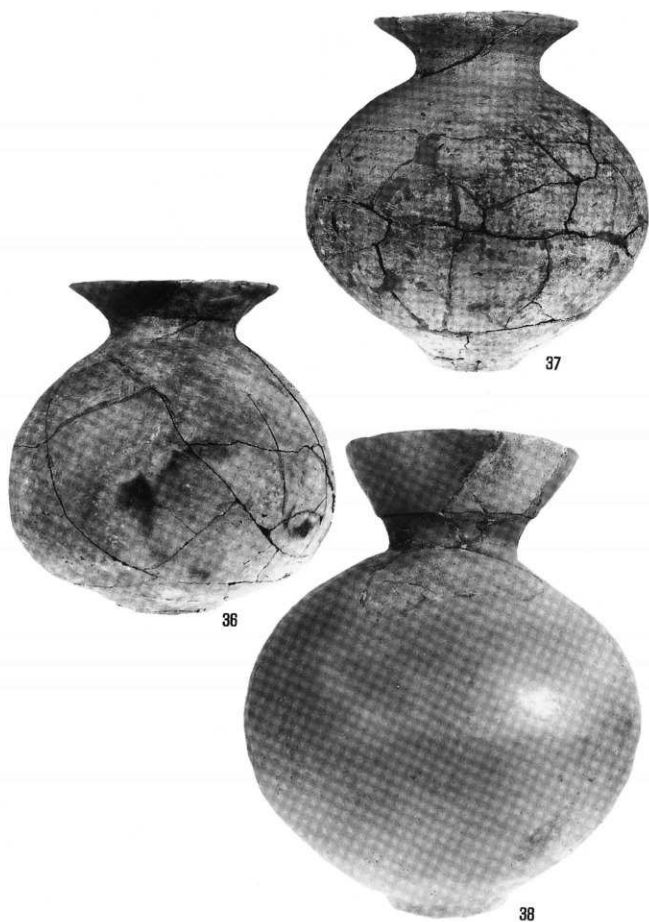
图版21 2号方形周溝墓出土土器 (21~25周溝内)



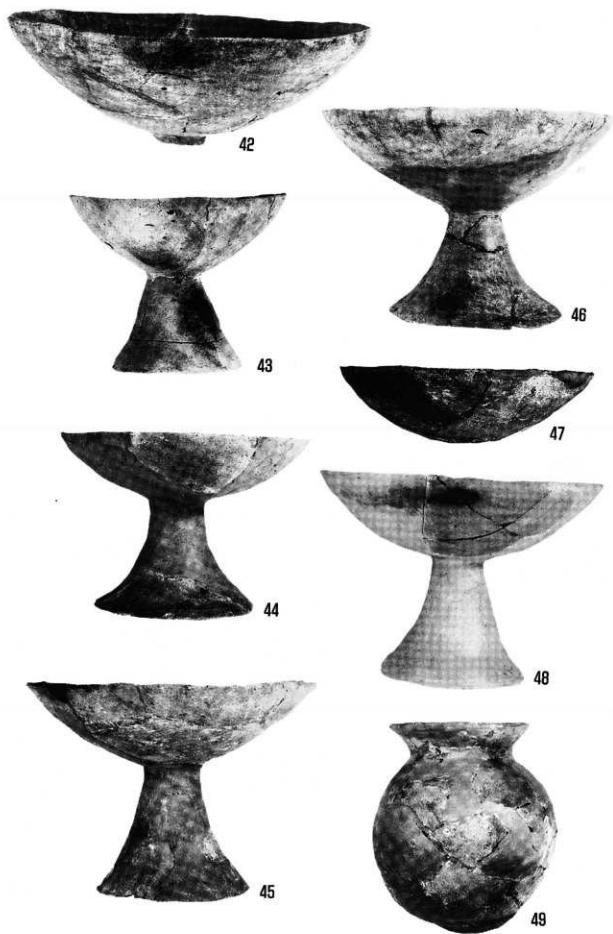
图版22 3号方形周溝墓出土土器 (26~28填頂部)



図版23 3号方形周溝墓出土土器(29~35・39~41墳頂部)



图版24 3号方形周溝墓出土土器(36~38墳頂部)



图版25 3号方形周溝墓出土土器（42~48墳頂部、49周溝内）



50

图版26 3号方形周溝墓出土土器 (50周溝内)



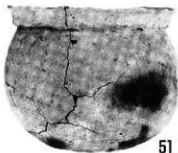
52



53



54

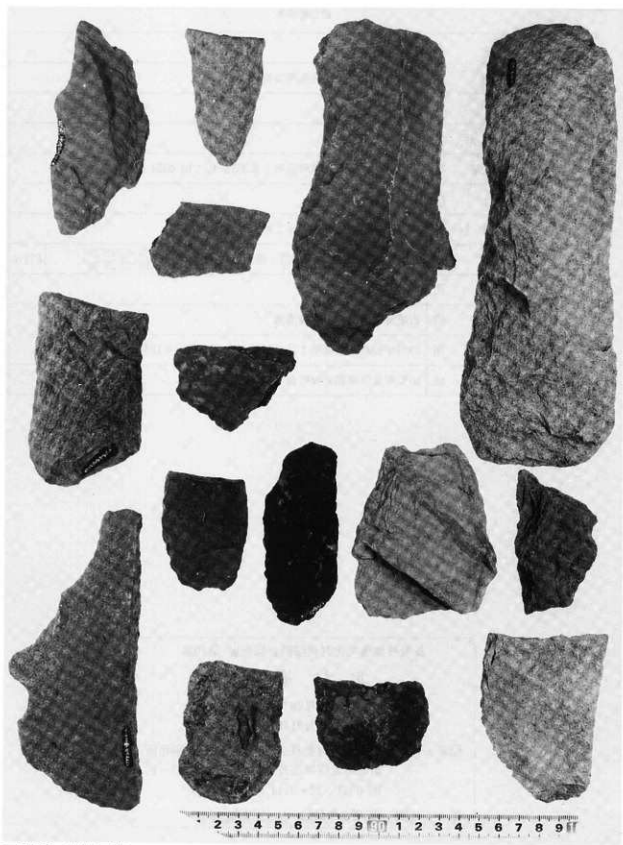


51



55

图版27 6号方形周溝墓 (51~55周溝内)



图版28 出土石器

報告書概要

書名	北村遺跡			
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集			
著者名	小宮山 隆			
編集・発行者	長坂町教育委員会			
住所・電話	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 Tel 0551-32-2111			
印刷所	(株)ぎょうせい			
印刷日・発行日	1996年3月20日・1996年3月31日			
北村遺跡	25000分の1地図名・位置・標高	長坂上条 204ほか	北緯 35°48'28" 東経138°22'30"	671m
概要	主な時代	古墳時代前期		
	主な遺構	古墳時代前期の方形周溝墓		
	調査期間	1994年10月～1995年1月 1995年4月～1995年12月		
	所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂下条守北村		

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集

北村遺跡

1996年3月20日 印刷

1996年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会・峡北土地改良事務所
山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
Tel 0551-32-2111

印刷 (株)ぎょうせい

